



## 子供を幸せにする大人の役割

学校長 村越 新

16日(土)には、土曜公開日にたくさんの保護者の方にご来校いただきました。引き渡し訓練にも参加いただき、たいへんありがとうございました。

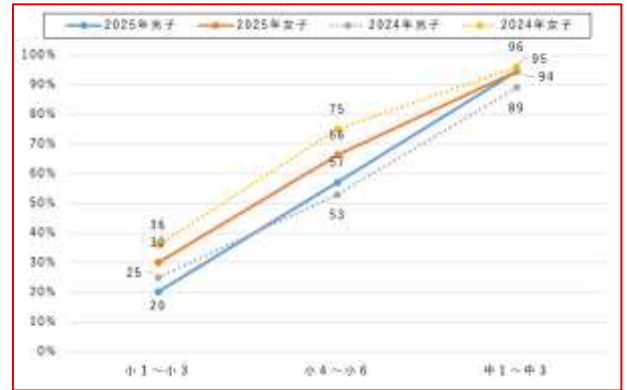
3校時には「子供を幸せにする大人の役割」という演題で、私が話をさせていただきましたので、その内容の一部をお伝えします。



### 0 職員に特に指導すること(略)

### 1 子供をめぐる問題

- ・スマホ所持率、SNS 使用率、ネット利用率、これらの利用時間の上昇
- ・トラブルに SNS が絡む、SNS 上、オンライン内のトラブルの増加
- ・大きな被害を受けている小学生の増加
- ・夜遅くまで動画視聴等ネット利用する子の増加(夜中に対戦ゲーム子もいる)
- ・スマホを「自分の物」と言い出したり、部屋で使用できるようになったら要注意
- ・自由に部屋に持ち込めるようになると、手がつけれない
- ・欠席の日に一日中、動画視聴やゲームができる子は、不登校になりやすい
- ・日本には「社会に貢献したい」と考える子が、とても少ない



### 2 ある講演会より

- ・大人になって幸せになる子たちに共通しているたった一つのこと

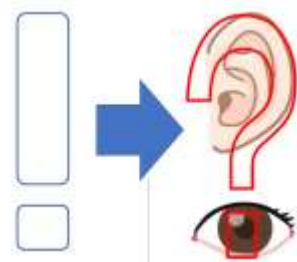
「夫婦の仲がよい」「支援者や仲間と仲がよい」

- ・子供の問題を夫婦間で責任のなすり合いが始まると、子供は辛い
- ・家庭が子供のありのままを認めることが、子供の幸せにつながる



### 3 52年目の属小

- 子供を信じる、信じ切ることをスローガンに掲げた  
自力でできることに大人が手や口を出すと、子供は育たない
- 子供に「？」が生まれるためには、教師は口より耳、目を使う
- 保護者は、「子供をよく見てくれる先生」を信頼する
- 子供への支援は、あくまでも「子供のため」である  
教師の都合での支援は、子供には通じない
- 学級で一番大事なことは「失敗を笑う子、馬鹿にする子」がないこと  
むしろ、教師は失敗・挑戦を喜んであげる
- 教師の言葉は「ケヤキ」  
ケ：謙虚に、結論を早く ヤ：優しく、易しく  
キ：きれいな言葉、切れ味は抜群
- 徹底して指導していくこと  
一「分からなかったら友達に訊く」、二「困ったときは必ず大人に言う」
- 子供の「問い」を高めていくことが、本年度の研修課題  
「調べたり考えたりすればすぐ分かる」内容→「探究を続ける」内容  
例「W杯のメンバーは何人？」 → 「どんな選手が選ばれるのか？」



### 4 感情リテラシー

- 『怒っている子どもはほんとうは悲しい』（渡辺弥生 2026.1 光文社新書）より
- \*子供本来の「ワクワク」を奪うものが、増えている  
いじめ、孤立、不登校、ひきこもり、過度な競争、SNS などなど
  - \*感情リテラシーを高めないと、大人になっても「ワクワク」できなくなる
  - \*感情リテラシーとは
    - ・自分の気持ちに気づき、正確に言葉にし、
    - ・他者の感情にも目を向けながら、
    - ・状況に応じて適切な対応をとる力
  - \*感情リテラシーを育てる活動を、大事にしていきたい  
例 伝統文化、演劇、音楽、読書、 一人で笑う など

### 5 お願い（マズローの五段階欲求）

- ・学校で「自己実現したい」と子供が思えるために、その下の欲求を満たしてほしい
- 「生理的欲求」（睡眠、食事、トイレ）
- 「安全の欲求」（家は安全な場所）
- 「所属愛欲求」（家族からの愛情）
- 「承認の欲求」（行動や存在を認めてもらう）

